



広報 みまた

発行・編集 北諸県郡三股町総務課 ☎52-1111 発行2月20日 No.274

町民憲章 (昭和39年1月4日制定)

わたくしどもは、歴史に輝き山河うるわしい三股に生を受け、先人の協和と忍耐による郷土建設の偉業を継ぎ、郷土愛と開拓精神をもって、ここに明るく豊かな、明日の町づくりのためにこの憲章を定めます。

- 常に新しい希望をもって郷土の開発につとめましょう。
- 教育を尊び青少年を健やかに育てましょう。
- 環境を清潔にし健康の増進につとめましょう。
- 生活を工夫しよりよい風習をつくりましょう。
- 力をあわせねばり強く住みよい町を築きましょう。

三股町の花 サツキ・鳥 ホオジロ・木 イチョウ

交通安全 今日も笑顔でゆずりあい

広報みまた 2月号

おしらせ



所得税の確定申告は

正しくお早めに

2月16日～3月15日

平成四年分の所得税の確定申告は、二月十六日から始まります。申告期限は三月十五日ですが、期限間近になりますと税務署は大変混雑し、落ち着いて相談ができません。長時間お待ちいただくようなことになりかねません。確定申告は、税務署から指定された相談日などに行けるだけ早めにお済ませください。

また、確定申告は「申告書の書きかた」や「所得税の確定申告の手引き」を参考に、昨年一年

今月の納税 固定資産税 4期

間の所得と税額を正しく計算して記載し、お早めに申告と納税を行ってください。
詳しいことは、都城税務署(☎二二一四三七七)や宮崎税務相談室(☎〇九八五一二四一九三八)にお気軽におたずねください。
※土曜日は、すべて閉庁となりますのでご注意ください。

国民年金杯囲碁大会

日時 三月十四日(日)

午後一時より

場所 三股町老人福祉センター

参加料 五百円

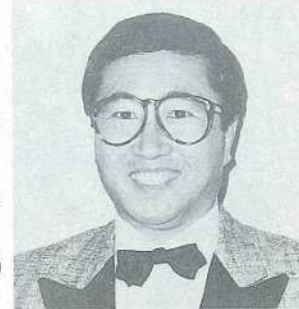
※多数ご参加ください。

人権啓発講演会

演題

「人がいて、

ぬくもりがあって、人がいて」



講師 レッゴー正児

とき 三月二十日(土) 春分の日
午後一時開演
ところ 三股中学校体育館

愛の献血

次のとおり献血にご協力いただきました。
〇十一月十九日
大悟病院 五七名

〇十二月四日
役場(来庁者を含む) 成分献血 四〇名

愛のご寄付

三股町社会福祉協議会では、忌明け寄付を次の通りいただきました。故人のご冥福をお祈りいたしませと共に、社会福祉発展のために有意義にご利用させていただきました。誠にありがとうございました。

平成四年十二月一日から
平成五年一月三十一日まで

納入者	続柄	故人名	地区	金額
吉村リツ子	夫	時雄	植木	五万円
小林典昭	父	利光	田上	三万円
西村カスミ	義父	清利	大鷲	一万円
丸山浩一郎	母	フチ子	寺桂	五万円
木下ハルエ	弟	正吾	中米	二万円
外園寅男	母	エキ	薮池	二万円
大峰ユキエ	夫	義法	小鷲	五万円
園田義孝	母	アキ	梶山	三万円
三重野ヤス	夫	真一	梶山	二万円

一般寄付

〇一月二十七日
都城東高校 四一七名
ありがとうございました。
佐澤四雄(下新) 百万円
社会福祉事業に役立ててください
いと、多額の寄付をしていただきました。
誠にありがとうございました。

三股町の人口

平成5年2月1日現在

男	10,418人	出生	28人
女	11,479人	死亡	7人
計	21,897人	転入	57人
前月比	+15人	転出	63人
世帯数	7,272戸	(+6戸)	

高田クニ	夫	常治	(81)	梶山	二万円
園田又男	母	アキ	(92)	小鷲	三万円
原口和美	夫	修一	(62)	東原	五万円
葉山正雄	妻	フミ	(76)	山王原	十万円
北村日人生	母	タネ	(87)	薮池	三万円
瀬戸山秀一	父	秀彦	(91)	山王原	三万円
小浜正雄	妻	ハルエ	(69)	大野	一万円
和田幸子	義母	エダ	(92)	谷	五万円
田畑サチ子	夫	不天	(66)	薮池	五万円
永吉芳子	義父	政信	(88)	薮池	三万円
浜田ユク	四男	由廣	(44)	山王原	三万円
片平ミツエ	夫	清孝	(83)	中米	二万円
中野テツ子	夫	勇作	(42)	大鷲	五万円

心武会

団員は、三股小と三股西小の児童50名。北川美次さん(47)の指導を受けながら、心身の鍛錬に励んでいます。

(写真は2月7日に行われた寒稽古の1コマ)

スポーツ少年団

平成5年
/2月号

名誉町民に中村さん



中村英藏さん
81歳・中米

教育文化の進展、畜産振興に功績 —消防団長、教育委員、食肉組合理事長など歴任—

町は、二月一日付
 けで中村英藏さん
 (八十一歳、中米)
 を名誉町民(第六号)
 にしました。

名誉町民の称号
 は、住民の福祉増進
 や産業文化の進展、
 公共的事業に偉大な
 貢献をし、その功績
 が顕著である人に贈
 られるもので、これ
 までに元町長の故大
 河内利雄さんら五人
 (全員故人)が名誉
 町民となっていま
 す。

中村さんは、教育
 委員として通算二十五年もの永い
 間、町教育行政の進展に貢献され
 るとともに、消防団長や交通安全
 協会三股支部長、宮崎地方裁判所
 調停委員としても多年にわたって
 活躍されました。また、昭和二十
 一年都城食肉事業協同組合の設立
 に尽力され、以来、理事長として
 四十六年もの永い間、組織の充実
 発展を通して都城圏域の畜産振興
 に大きく寄与されています。

これらの功績により、これまで
 に町文化賞を受賞されたのをはじ
 め、県知事や農林水産大臣、厚生
 大臣、警察庁長官などから表彰さ
 れ、昭和五十二年には藍綬褒章、
 昭和五十八年には勲五等瑞宝章に
 輝かされています。

これまでの名誉町民



故 小倉 義常氏

明治17年生まれ。三股村・町議
 会議員、助役として地方自治の発
 展に寄与した功績により、昭和39
 年に名誉町民(第1号)となる。
 昭和39年に死去。



故 上原 莊吉氏

明治15年生まれ。耕地整理組合
 を組織するなど農業の生産基盤整
 備に尽力した功績により、昭和40
 年に名誉町民(第2号)となる。
 昭和42年に死去。



故 桑畑 正一氏

明治41年生まれ。村議会議員、
 県議会議員として地方自治の発展
 に寄与した功績により、昭和54年
 に名誉町民(第5号)となる。昭
 和54年死去。



故 福永 広記氏

明治25年生まれ。村・町議会議
 員として活躍するとともに、県の
 畜産振興に寄与した功績により、
 昭和40年に名誉町民(第3号)と
 なる。昭和55年死去。



故 大河内利雄氏

明治44年生まれ。村長、町長と
 して20年もの間、地方自治の発展
 に寄与した功績により、昭和53年
 に名誉町民(第4号)となる。昭
 和59年死去。

中村英藏さんの主な経歴

- (公職歴)
- 昭和21年5月～昭和25年4月 三股町農地委員
 - 昭和26年11月～昭和32年11月 三股町消防団長
 - 昭和26年11月～昭和31年9月 三股町教育委員会委員
 - 昭和27年1月～昭和57年3月 宮崎地方裁判所調停委員
 - 昭和43年10月～昭和63年9月 三股町教育委員会委員
- (民間歴)
- 昭和21年4月～平成4年3月 都城食肉事業協同組合理事長
 - 昭和34年10月～昭和48年5月 交通安全協会三股支部長
- (他に、都城地区調停協会会長、都城地区食品衛生協会副会長、県家畜商業協同組合専務理事など)

二月一日に称号贈呈式

式典参列などの特典付与

名誉町民の称号贈呈式は、一日
 の午前九時から役場大会議室で行
 われ、町四役や正副議長、各常任
 委員長、教育委員長など約四十名
 が出席。式では、中村さんの数々
 の功績を小倉助役が紹介した後、
 福永町長から名誉町民の称号と名
 誉町民章、年金証書が中村さんに
 贈られました。続いて、福永町長
 と高畑議長がお祝いを述べた後、
 中村さんが「名誉町民に選ばれて、
 名なうれしいことはありませ
 ん。何のお返しもできませんが、
 三人の息子たちが、私の代わりに
 してくれるものと確信していま
 す。」とお礼の言葉を述べました。
 なお、名誉町民となった中村さ
 んには、条例に基づいて毎年年金
 が支給されるほか、町の公的式典
 への参列などの特典が与えられて
 います。

あなたの声を町政に

福永町長と語ろう

ふれあい行政

モーニング・フォーラム

あなたも「あすの三
 股づくり」に参加しま
 せんか。
 今後のまちづくりの
 進め方や三股町の将来
 像など、皆さんのユ
 ニークなアイデア、建
 設的なご提言をお聞か
 せください。
 フォーラムには、ど

なでも参加できます。大勢の方
 のご来場をお待ちしています。気
 軽な服装でどうぞ。

記

1、日 時 三月十九日(金)
 午前七時～八時

2、場 所 役場4階会議室

町税等の納付は 便利な口座振替で

町税等の納付が、四月一日から
 口座振替でできるようになりま
 す。

前納報償金は廃止

振替できるのは、固定資産税や
 町県民税、軽自動車税、国民健康
 保険税、特別土地保有税などの税
 金のほか、住宅使用料や国民年金、
 保育料、水道使用料、奨学資金償
 還金、福祉施設入所者負担金があ
 ります。

只今、各金融機関(郵便局は水
 道使用料のみ)で申込みを受け付
 け中です。

口座振替についてのお問合せは
 三股町役場 ☎ 52-1111 へ

口座振替制度への移行に伴い、
 これまで町県民税と固定資産税を
 納期前に納入されていた方に支
 払っていた前納報償金は、四月一
 日から廃止されます。

今まで前納されていた方は、口
 座振替制度をご利用ください。

ワースト10位に躍進

三股町民が昨年一年間に交通人身事故を起こし、その第一当事者（加害者）となった数は七十人で、前年の八十九人、前々年の百九人に比べて大幅に減少。事故発生率の目安となるワースト順位も、県内44市町村の中で十位と悲願の二けた台になりました。二けた台は、昭和五十五年にワースト順位が始まって以来初めて。

ワースト順位は、県内で発生した交通事故のうち、人身事故の加害者をその居住市町村ごとに振り分け、人口一万人当たり換算して数値の高い方から順位をつけるもの。本町は過去、毎年交通事故が多発し、常にワースト上位を低迷。特に、平成元年と二年は連続のワースト一位とたいへん不名誉な記録を作っていました。

交通安全運動の成果実る 悲願の2けた台達成



このため、交通事故のない明るい町づくりを進めようと、平成二年十一月二十五日「わがふるさと交通安全一運動」を設定し、町を挙げて強力な交通安全運動に取り組んできたのです。

具体的には、町交通安全対策協議会が「飲酒運転追放」や「止まっただけの実践」の署名運動をしたり、安全運転教室や交通安全駅伝大会を実施し、町民の交通安全意識の高揚に努めてきました。また、交通安全協会による朝夕の広報活動や協会婦人部の街頭キャンペーン、交通指導員やPTA、公民館役員などによる通学児童生徒の街頭指導など、町内の各組織が積極的に交通安全運動を展開してきました。

この結果、平成三年は七位とどうにか上位を脱出し、昨年は遂に悲願の二けた台になった訳です。交通事故が減少したことは、本来の意味で明るい町づくりが一步前進したことになり、町民一丸となった交通安全運動の成果といえるでしょう。



昨年1年間

町内で2件の死亡事故

さらに交通安全意識を

しかし、昨年一年間に交通事故で二人の町民の方が亡くなられており、依然として町内で交通事故が多発していることには変わりはありません。

交通事故は、一旦起こしてしまえば被害者、加害者はもちろん、その家族をも不幸のどん底におと

しいれるのです。自分から、自分の家族から交通事故を出さないという町民意識の高まりと、一人ひとりの交通安全運動の実践が大切です。

あがな 贖いの日々

「交通事故」およそこの言葉は自分にとっては無縁のものであると共に、ましてや自分が死亡事故を起こしてしまうとは、よもや考えもしないことでした。

しかし、その事故は平成元年九月二十三日早朝に、私の酒酔い状態での無謀運転によって、起こるべくして起きてしまいました。その日は、仕事のストレスが溜まっていたのを解消しようとして、「軽く一杯」というつもりで飲みに行ったのですが、その時、運の悪いことに高校時代の同級生とバッタリ会ってしまったこともあり、すっかり意気投合して飲む量も自然と多くなってしまいました。

そして、そのあと別の店へ自分の車で行き、その店で飲んでから、同級生を送っていったのですが、送り終えたあと、車を止めて少しの間眠ってしまいました。

起きてみて、「あまり飲んでいないから大丈夫だろう」と思いながら車を走らせましたが、後で考えるともう結構アルコールが体に回っていて、正常な運転などできるわけがなかったのです。

本当に、今考えてみてもこれら一連の行動は、狂気の沙汰としかいいようがありません。そして、更に悪いことには、その時前を走っていた車を、無理に追い越しにいったしまいました。追いついた際、ハンドル操作のミスによって対向車線にはみ出してしまう、その時すでに対向車線に車が…。

その直後かなりの衝撃があり、意識がもうろうとしていましたが、なんとか車の外へ出なければいけない、車体に挟まれてしまった足を引張り出し、車から這い出ました。その時、目に飛び込み鼻を突いたのは、道路から飛び出してグシャグシャになった相手方の車と、オイルの焦げたにおいでした。その瞬間、事故を起こしてしまったという現実を思い知らされながらも、「相手の方は大丈夫だろうか」と考えました。

飲酒運転の 成れの果て 会社員 35歳

しばらくすると、事故を目撃した人が通報したのか救急車が到着し、相手方の男性一人と女性一人、それと自分も乗せられて病院に向かいました。その時には、相手方の女性が意識不明の重体で、救急隊員が人工呼吸をしているのを、私自信不安な気持ちで見ているのを感じました。

病院に着き私の応急処置が終わると、しばらくして医師から、相手方の女性が「今、亡くなった」と知らされた時、自分の犯した過ちの重大さ、愚かさを感じました。

更に翌日には、怪我をして救急車に乗っていた男性とは別の男性が、即死ということを知った時、頭の中が真っ白になり、「なぜ事故を起こした張本人が大した怪我もせず、何も悪くない人達に被害を被って亡くなってしまうのか」といった矛盾する気持ちで、自分でもどうしたらよいかわかりませんでした。

しばらくして、気がいくらか落ち着くと同時に、とにかく一日も早く病院を退院し、被害者の遺族の方々にお詫びをしなければと思っていました。それでも入院中は特に

気が重く辛い毎日でした。その後、退院してからは被害者の家へ精一杯行くだけでした。その意志が、相手方の遺族に対してわずかながらも通じたのか、一年足らずで示談に応じていただきました。

その時、今まで重くのしかかっていた物が少しだけ軽くなりました。それでも、遺族の方々には、一生恨まれても仕方のない仕打ちをしてしまったことは、消し去ることができません。また、私自身忘れることも許されないのです。

示談成立後、裁判が行われ、二年四月という実刑判決を受けました。この時、「ああ、自分は犯罪者になってしまった」と思いました。それでも、被害者の遺族の方々に与えた悲しみ、社会に及ぼした影響、事故内容を考えると当然の報いであると思います。

今はここ市原刑務所で罪の償いを送る毎日ですが、ここから社会へ出て変わりはありません。自分に対しての甘えをなくし、二度と同じ過ちを繰り返さぬよう、そして、再び悲劇を生まないようにまともな人間になることが、亡くなった方や迷惑を掛けてしまった人達に、唯一できることなのです。

ふるさとへの便り



桑畑三則 (下新出身)

その昔、新馬場ことばと云うのがありました。今ではすっかりなくなつたものと思いますが、戦前までは新馬場独特の言葉の使い方があったのです。それは、三股の方言に南薩地方のイントネーションを交えたもので、語句の上げ下げの激しい言い回しで語られていました。

新馬場ことば

昭和の初め頃、当時、小学校の校内売店は高等科の女子生徒が休み時間を利用して販売していましたが、低学年の私が文具を買いに行きますと、私の新馬場ことばがおかしいらしく、彼女たちは「キヤツ」「キヤツ」と笑いこけながら、私に何べんも何べんも同じせりふを言わせたも

のでした。私の母が、生前よく話していた新馬場の勘左や与次郎の言葉のやり取り、或いは、助八が言ったげなという言葉そのものはまぎれもなく南薩なまりなのです。では、どうしてこのような新馬場ことばができたかというと、新馬場の人たちの先祖は寛政五年(一七九三年)薩摩藩の大御支配人配政策により加世田郷から勝岡郷榊山村の現在地に移住入植させられたのです。異郷の地にて彼らは開墾に取り組み、勤勉と儉約にて逐次、開拓地を広め基盤を築いて行くのですが、よそ者として他の集落の人たちとの交わりも少なく、新馬場だけの殻に閉じこもり、閉鎖的な集落を形成して言葉も南薩なまりが親から子、子から孫へと伝えられたものと思います。しかし、時は流れ、明治三年勝岡郷と榊山郷が合郷して、下三俣郷となる頃から、新馬場の人たちが徐々に門戸を開き他郷の人たち

とも接するようになり、言葉も次第に三股の方言に同化して行くのですが、新馬場の人たちは元来、よそ言葉をいみ嫌う風習があり、標準語でも話そうものなら「あつこん、息子じよは、よそ言葉をつこちよいやひど」と言い、それを聞いた隣の婆さんがあきれたと言わんばかりに「うんだもんしらーん」とさげすみの眼差し。このような土地柄ですから、ましてテレビもラジオもない時代なので同化

のテンポも遅く、昭和の御世まで南薩なまりの新馬場ことばが残つたものと思われまふ。私は一人で故郷の方言を口ずさむ時、私の記憶にしまい込まれた幼い頃の新馬場の風景や、過ぎ去った日々への追憶が、さらに郷愁をかき立てます。次号は佐澤栄一さん(下新出身)にリレーします。

新選管委員が決まる

十二月議会定例会で選挙管理委員会委員の選挙が行われ、次の方々が新しい委員に決まりました。任期は平成四年十二月二十二日から八年十二月二十一日まで。



委員 園田 幸吉 (山王原、70歳)



委員長 隈田原昌恭 (植木、66歳)



細山田ヒサ子 (梶山、61歳)



委員 田口 善正 (前目、67歳)

子どもたちの声を聞く会(その③)

勇気の花を

さかせたい



勝岡小6年 岩橋 麻耶

私は、だれに対しても同じような態度のとれる人、困っている人の手助けがすんなりできる人を尊敬しています。それに、自分の意見をはっきりとすることも、とても大切なことだと思っています。実は、この三つは今の私にできないことなのです。まず、だれに対しても同じような態度をとれるということでは、友達の中であまり好かれない人に対して、自分もみんなと同じような態度をとって、その人をとても傷付けてしまふことがあります。もしも、自分がその人と同じ立場だったら、どう思うと、後で自分のしたことが恥ずかしくなることがあります。でも、知らず知らずのうちに、私はその思いを心のおくの方へとじこ

めてしまっているのです。困っている人を見ても、私は声をかけることさえできずに通り過ぎてしまいます。ある時、私は近くの公園へ行きました。そこで、一人の小さな男の子が泣いているのを見つけました。どうしたんだろう、何を泣いているのだろうと、思っていたら、散歩にでも来たのでしょうか、おばあさんが、「どうしたの? ころんじやったの?」と聞いていました。男の子は「うん、ころんだ。でも、痛くないよ。だいじょうぶだよ。」と、いって、なみだをこらえて立ち上がりました。このようなできごとを身近で見ると、なんだか自分はずかしくなってきました。そして、私は自分の意見がはっきりと言えないのです。心の中では思っているけど、口に出しては言えないのです。学級会での話し合いの時、司会者が「自分の意見がある人は発表してください。」と言います。その時も、私の心の中ではちゃんと意見はまとまっているのです。でも、声にならないのです。こんな時、自分が思っていることをそのまま声に出して、発表できる人が

うらやましくなることがあります。

先日、三股町から「花いっぱい運動」の種をいただきました。町を花と緑でいっぱいにしましょうということだそうです。先生は、「三股町を花と緑で一杯にする目的のほかに、花を育てるやさしい心をみんなに持つてもらいたかったのだと思いますよ。」とおっしゃいました。実は、その種は私の机の中にねむったままだったのです。私の勇気も胸の中にしまったままです。

今日の発表の話があった時、先生に「自分を変えてみる勇気がありますか。」と言われました。その日、私は家の土を集めて種を植えました。そして、心の中に勇気の種も植えました。自分のいっしょうけんめいのやる気で、それを育てていこうとおもいます。

友達



三股小6年 吉田 憲生

ど、できるようになるまでが長いのです。と中々くじけたりすると、せっかくなり始めた勇気の芽も、しおれてぐったりとしてしまいます。今日の発表までに、少し勇気の芽が伸びてくれたような気がします。私は、今までできなかった良いことをできるように努力します。こまっている人を見ても、知らんぷり、ということはせず、その人の手助けをしたり、だれにでも同じように接することができるように努力します。そして、自分の意志をはっきり相手に伝えられるような、そんな人に私はなりたいと思います。

いつも、仲良く遊んでくれる友達。ほくは、そんな友達を今まで大切にしてきましたが、本当の友達ってどんな関係かなと考えてみました。今までほくの頭には、ただ遊ん

してくれる人のことしかありませんでした。ほんとうの友達とは、おたがい悪いことを注意してくれる人、困っているとき心から助けてくれる人、自分の立場になつて考えて行動してくれる人、信らいつて仲良く遊んでくれる人のことか。そう考えると、ぼくの今まで

い、親切に教えてくれた友達に感謝しました。これがきっかけで親しい友達になり、旅行中よくいっしょに行動しました。

たみの間からへびが出てきたらゾツとします。そのような願いをこめて、へびという字を逆さにしてはつてあるということでした。

顔を覚えることができました。別れる時がさびしい気持ちになりました。韓国語が話せたら、もっと親しくなれたのになと思うと残念でした。言葉は日頃なにげなく、当然のように使っています。しかし、いざ外国に出てみると、言葉が思うように使えません。こちらの意志もなかなか通じません。「こんにちは。」「ありがとう。」「この二つの言葉さえも自由に使えないのです。

対にきらわれるのではないかとこの気持ちが出てくるのです。これでは本当の友達ではないでしょう。友達のためにもよくないことです。韓国での研修は、そんなほくを、人間的にかえるきっかけをつくってくれました。

さあ、韓国の金ほ空港にぼくたちは着陸し、研修旅行がはじまりました。韓国の第一印象は、日本のように高いビルが立ち並んでいるかと思えば、田舎のようなレンガ家ばかりの町並もあり、今と昔がまじっていて不思議だなと感じました。

二つめは、マナーの大切さです。韓国の人々は、他人にめいわくをかけないように日頃から気をつけていると聞きました。食事の時も、静かにおわんをもたず、汽車の中では静かに、ホテルでも同じでした。しかし、日本人観光客やぼくたちは、車内で走ったりホテルでさわいだり、反省しなければならぬことがたくさんありました。

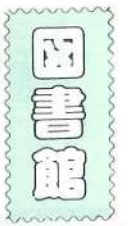
大切な道具です。その道具をうまく使つてこそ、初めてすばらしい人間になれると思います。そして、言葉をつくることもできます。この言葉への気持ちをつまみでも忘れないでいきたいです。

ぼくは韓国に行くとき、県内のあちこちに友達ができました。この友達は、おたがいに協力し、ぼくたちみんなを楽しませ、はげましてくる友達でした。飛行機に乗った時、となりにすわった人が、「口につばをためていた方がいいよ。」と教えてくれました。ぼくは、初めて、飛行機に乗ったので不安もあり、なんでだろうときもんに思っていました。すると、いきなり耳がツーンとなりびっくりしました。ためていたつばを思わず飲むと、耳がすっきりしました。小さなことですが、ぼくのことを思

ある家には、「巳」という字を逆さまにして柱にはつてありました。どういう意味があるかわかりますか？韓国の古い家のなやみの一つに虫のしん入があります。かやはえといったものはすぐに殺せますが、へびはそういうわけにはいきません。もし、ぼくの家のた

三つめは、交歓会の時に、韓国の友達ができたとのことです。残念なことに、言葉がうまく通じませんでしたが、表情やいろいろなゲームを通して相手の気持ちをくみ取ることができ、おたがいに

韓国研修を終えて、これからぼくたちがしていかななくてはならないこと、それはまず、この三股町の中に多くの友達をつくり、さらに積極的に未来の三股町をさずいていくことです。三股町は韓国と同様、まだまだ発達していくことができません。ぼくの目標は、はっきりしました。ありがとうございます。



だより (第74号)

平成四年度 読書感想文

読書感想文コンクール 入選者

本年も、多数の応募者があり、自ら主人公になったつもりで感動したり、すぐれた感性にもとづいての感想文や感想画がかなりありました。半面、宿題として、ただ出しさえすればいいというおざなりの作品もめだちました。

今、おとなも子どももテレビとは切り離せない時代となつていますが、やはり、読書の時間を見つけて読む習慣はぜひつけてほしいと思います。

応募作品数 小学校 五八六 中学校 一〇九 感想画 小学校 九八 (画の方は学級二点以内)

読書感想文入選者

小学校の部 最優秀

- (小一) ほたるのはか 三股小 小山田まり (小二) ぼくは一年生だぞ 三股小下西ゆうこ (小三) とべないホタル 三股西小 曾根崎弘嗣 (小四) 二年間の休暇 三股西小青石麗永 (小五)



賞状をもらう 最優秀賞の下西ゆうこちゃん

佳作

- (小一) 梶山小大村まき 三股小瀧頭らんこ 三股小川添あいみ 勝岡小福永えみり (小二) 宮村小黒木ともこ 三股西小和氣さおり 勝岡小瀬戸山かなみ 三股西小嘉藤ひろや (小三) 三股西小坂元由貴 三股西小鈴木明菜 三股西小木幡優 勝岡小西田将和 (小四) 三股小橋元勢

優秀

- (小一) 宮村小福地りょうたろう 三股西小鈴木かな (小二) 宮村小上杉めぐみ 三股小嘉藤みえ (小三) 三股小轟木康平 三股小木佐貫友美 (小四) 梶山小花岡あかね 三股小加藤早苗 (小五) 三股西小栗山葵衣 勝岡小永瀬ゆかり (小六) 三股西小黒木美杉 三股小吉田憲生

佳作

- (中一) 下松瀬青記 山元恵 (中二) 黒木直子 岡本愛 (中三) 時任美由紀 高野豊子

最優秀

- (中一) 私がいさかかった時に荒武芽久美 (中二) 親友であるからこそ (こころを讀んで) 萩原リサ (中三) 赤毛のアン 木幡愛

読書感想文入選者

小学校の部 最優秀

- (小一) かもとりごんべえ 三股西小戸高だいすけ (小二) 力太郎 三股西小函師かおり (小三) こまったさんのグラタン 三股小神宮司あつ子 (小四) きじとつめ 三股西小今村秀和

優秀

- (小一) 三股西小黒木たくや 三股小馬場かなえ (小二) 三股小小谷ゆき 梶山小別納ゆうさく (小三) 三股西小鶴田奈々美 三股小大重俊輔 (小四) 三股西小飛松昭一郎 三股西小日高智恵 (小五) 宮村小田嶋桃子 三股西小下沖典子 (小六) 三股小久保直貴 三股小飛松藍子

佳作

- (小二) 梶山小中村とおる (小三) 三股西小坂口涼子 三股小指宿恵 (小四) 宮村小園田豊 (小五) 長田小田口奈津美 三股小隈元慎輔 (小六) 宮村小馬渡智広

Table with 7 columns (Week, Day, Date) and 5 rows (1-5) showing library closure dates. Includes a note: '数字は休館日、2日は図書整理日、9、16、23、30日は午後1時から開館。'

町の話題



屋内で消防出初式

— 団員多数を表彰 —



真剣な面持ちで通常点検を受ける団員

新春恒例の消防出初式は一月十四日、前夜から降り続いた雨のため、河川敷から急ぎよ会場を勤労者体育センターに移して行われました。屋内のため、発水なしの少々

華やかさに欠ける式典となりましたが、それでも各部がきびきびした動作で福永町長の通常点検を受けた後、表彰式が行われました。

◎通常点検の成績

- 一位 第一部
 - 二位 第二部
 - 三位 第六部
- ▽**県知事表彰**
機動本部 重信和人
- ▽**県消防協会長表彰**
西村尚彦、徳丸綱秋、森忍
- ▽**都城支部長表彰**
優良部として第三部（十五名）
二分時男、出水和彦、岩崎龍郎
- ▽**町長表彰**
出水健一、吉川真矢、中村浩二

- 中石重成、高畑和博、福田網信
 - 栗野信秋、轟木一男、中村 勇
 - 宮越信一、松崎清一、西村賢次
 - 福田俊秀、畑中利美、山下秋博
 - 日高隆光
- ▽**団長表彰**
- 瀬尾真紀、有村逸志、熊谷 久
 - 出水節夫、蔵元久美、下村 守
 - 木下行弘、桑畑喜芳、米村伸一
 - 溝口昭一、別納幸一郎、満来和秋
 - 谷山孝一、黒木幸治、柿原信智
 - 南畑俊一、森 史郎、黒木武美

久保菱刈町長を招く

新春懇談会

町の新春懇談会が一月八日、老人福祉センターで開かれ、鹿児島県菱刈町の久保敬町長が「地域づくり」をテーマに講演しました。新春懇談会は、活力のある町づくりを進めようと、毎年一月初めに開いているもので、議員や農業委員、教育委員などのほか、自治公民館長や各民主団体の長など百十名が出席しました。

二取町新春懇談会



たつてユーモアたっぷりの講演を行いました。至る所で毒舌が飛び出し、会場は終始笑いのうずみ包まれていました。

サル研究家三戸さんが講演

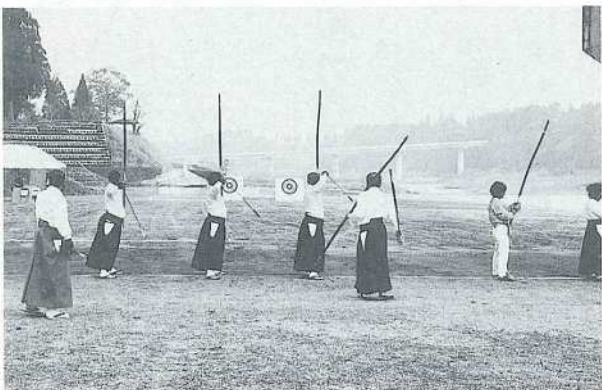
文化講演会

幸島のサル研究家として知られる三戸サツエさんを講師に招き、町文化講演会が二月六日、役場大会議室で開かれました。三戸さんは、戦争直後から40年以上もの長い間、幸島のサルの観察を続けてきた人。元京都大学幸島野外観察研究員非常勤講師も勤め、著書「幸島のサル」で吉川英治文化賞やサンケイ児童出版文化賞を受賞。他に「ボスザルへの道」や「サルと私」など多くの著書があります。



講演は、「おサルに学ぶ子育て」と題して、永年の観察から知ったサルの子育てについて「愛情にあふれているが、しつけは厳しい。人間もサルに学ぶべきだ。」と話し、聴講した母親など約九十名に深い感銘を与えました。

河川敷で遠的大会



町弓道愛好会（小倉哲朗会長）は二月七日、三股橋下の河川敷で遠的大会を開催しました。遠的は、的の大きさが1mで、距離は通常行われている近的（二十八m）の二倍強の六十mもあり、矢を射るときの角度調整が難しい競技。この日は約四十名が遠的に挑戦。向かい風の影響もあってか、初めのうちは中々矢が当たらず、的の手前に落ちたり飛び越えたりで、四苦八苦していました。

給食職員が学校訪問

全国学校給食週間（1/24～1/30）にちなんで、学校給食センターの職員が先ほど町内の小中学校を訪問し、児童生徒の給食状況を参観しました。

現場での給食の実態を把握し、今後の献立作成や調理に活かそうと行ったもの。学校訪問には、調理員や栄養士のほか、福永町長など町四役も交代で参加。配食状況を参観した後、教室で子どもたちと懇談しながら楽しい会食をしました。

どお、おいしい？



宮村小児童が慰問

デイ・サービスセンター



宮村小学校（中村俊夫校長、児童数百十六名の六年生二十名が、先ほどデイ・サービスセンターを慰問に訪れました。センターの慰問は、卒業前の思い出づくりにと同小が三年前から行っているもの。当日は、センターのマイクロパスで午前十時半に到着。縦笛とピアノを使って「シルクロードのテーマ」など数曲の合奏を披露した後、お年寄りの肩をたたいたり、一緒にゲームをしたりして交流を深めました。